

静岡

清水町は、霊峰富士を北西に望み、静岡県東部地域の中心都市である沼津市と三島市との間に位置している。その面積は8.84km²と小さいものの、人口密度は県内市町の中で最も高い。国道1号が町の北部を東西に横断、新東名長泉沼津インターチェンジや東名沼津インターチェンジ、JR東海道新幹線三島駅にも30分前後で連絡できる。この恵まれた交通利便性からショッピングモールや多くの商業・サービス施設の立地が相次ぎ、これら施設へ近郊から訪れる人々も多く商業を基幹とした活力のあふれる町となっている。

また、同町の中央には日本三大清流の一つとして有名な柿田川が流れている。同河川は富士山の伏流水を水源とし、日量約100万m³の湧水量と優れた水質を誇り、2011年には国の天然記念物に指定された。

13年、同町は町制施行50周年の大きな節目を迎えた。この記念すべき年に祝賀と新たな半世紀への成長をめざし、町の情報発信を基本コンセプトに様々な記念事業を実施した。以降、町では、行政

と町民との一体感や地域住民の協働の重要性を踏まえつつ、「ひとの元気」「地域の元気」の創出をまちづくりのポイントとし、人口に占める若年層比率が高いこと、交通便利と商業の集積立地、加えて柿田川をはじめとした自然環境の豊かさ、これらの町の特性を活かし、「笑顔があふれ ここよく 住み続けたいまち 清水町」実現の第一歩として新たな半世紀へのスタートに取り組んでいる。

その中で、自転車ロードレース「クリテリウム大会」（一定のコースを周回する自転車競技大会）は13年実施の50周年記念事業のメインイベントとして、全国に発信できるスポーツイベントを開催するというコンセプトの下、近年の自転車ブームに着目し、通常交通を遮断して開催。コースを街中に設置する公道クリテリウムとしては県内初の催しとなった。この第1回大会は、全国各地から選手が参加し成功裡に閉幕。町は「地域の元気」づくりに大きな効果があったと判断し、第2回大会の実施を決定。14年11月に「2014清水町ゆうすいクリテリウム大会」を昨年同様の卸団地内特設コース（1周930m）で開催した。

当日は、中・高校生から70歳代までの選手が熱戦を繰り広げた。周回コースは自動車道4車線分を使用し、コーナーは4ヵ所と長方形型で設定。レーサーは直線距離の長い高速コースで他にはないクリテリウムレースの醍醐味を味わうことができた。また、観戦者も公道コースのため、自転車競技の迫力あるロードレーサーの疾走を間近で楽しんだ。14年第2回大会のレース参加者は、北関東や関西方面といった遠方からの選手を含め約500人と、13年の第1回大会約300人から大きく増加した。

また、2～6歳の幼児を対象にペダルなし自転車競技「ゆうすいくんランニングバイク大会」も併催（参加者約80人）、幅広い年代を対象としていることも好評を博した。地域にあっても、交流人口の拡大や活性化に大きな成果が得られたと評価されよう。

同町では「清水町ゆうすいクリテリウム大会」を、ホビーレース（市民参加型競技）の最高峰に位置づけられる名イベントとなるよう継続実施を検討、全国に清水町の魅力を発信できる事業として取り組んでいきたいと考えている。

自転車公道レース 「クリテリウム大会」で交流拡大



2014清水町ゆうすいクリテリウム大会